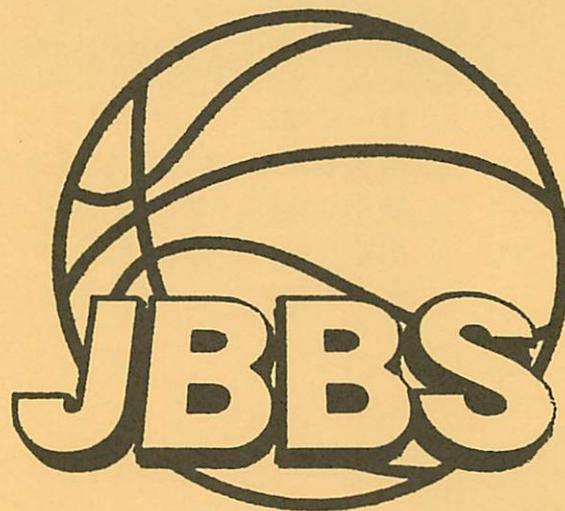


# バスケットボールプラザ

*Basketball Plaza*

*No:27*

---



2005年7月

日本バスケットボール振興会

# Molten®

## INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。

一途にトレーニングに励むときも、

戦いに敗けても挫けず

何度も果敢に挑戦し続けるときも、

熱く、まばゆく燃え続ける。

熾烈な戦いのなかで、

すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



- F I B A (国際バスケットボール連盟)主催国際大会唯一の公式試合球/男子
- J A B B A (日本バスケットボール協会)主催大会公式試合球/男子
- J B L (バスケットボール日本リーグ機構)主催大会唯一の公式試合球
- W J B L (バスケットボール女子日本リーグ機構)主催大会唯一の公式試合球 (2003 - 04シーズン)

MTB7AT 7号球 ¥9,240(本体価格¥8,800)

国際公認球・検定球・貼り・天然皮革・ワイドチャネル  
(表記の価格はメーカー希望小売価格)

# 目 次

- 特集
  - 2007プロ発足を展望する・・・・・・・・・・ 広報部会・・・・・・ 3
  - バスケットボールには神様がいる・・・・・・ 歴史編纂プロジェクト・・・・ 7  
故吉井四郎氏の足跡
- 全国シニアバスケットボール交歓大会・・・・・・ 普及部会・・・・・・ 15
- わが軌跡
  - 古き良き時代・・・・・・ 岡山 恭崇・・・・ 18
- 会員だより
  - 思い出ばなし・・・・・・ 青木 和昭・・・・ 20
  - コーチングフィロソフィ・・・・・・ 橋本 豊・・・・ 22
  - バスケットボールとの関わりで願うこと・・・・・・ 仁田原 元・・・・ 24
- 平成17年度総会報告・・・・・・ 広報部会・・・・ 26
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 各団体主要スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
  - 全国ママさんバスケットボール交歓大会（於 広島市）
  - 全国高等学校バスケットボール選手権大会（於 千葉県船橋市、八千代市）
  - JBL 2005～2006シーズンスケジュール（全国各地）
  - WJBL Wリーグ開催予定地一覧（全国各地）
  - 社会人バスケットボール選手権大会（於 神奈川県平塚市） ほか

—— 2007プロ発足を展望する ——

民秋史也日本協会プロ化実行検討委員長に聞く

担当：広報部会

—— 去る3月30日、日本協会プロ化実行検討委員会の答申案が日本協会理事会で承認されました。

答申案によれば本年5月にはプロリーグ設立準備委員会を設立して、プロリーグ第一段階の準備に入ることになっていますが、準備委員会の人選は進んでいるのでしょうか？

人選は現在進行中でもうすぐ確定します。メンバーの選定は殆ど終わっていますが、委員長については最重要ポストでもあり、慎重を期す必要があることと日本協会理事会の承認も必要ですので、いま少し時間がかかります。

—— プロ化実行検討委員長だった民秋さんが準備委員長になるというのが一般的な予想ですが？

日本協会では、これまで何度か「プロ化」を掲げてきておりましたが、いずれも中途半端な状況でプロ化を成功できませんでした。今回のプロ化については、世界のバスケットの状況、今の日本のバスケターの状況を踏まえ、どうしても成し遂げなければ成らない課題です。そういった意味で、日本協会としてはバスケター界の全面的なバックアップのもと、プロ化に専念しなければなりません。組織的には私がプロ担当の副会長で、その下に設立準備委員長を置くことになります。準備委員長は実質的にプロ発足後のコミッショナーも務められる人材をと考えています。プロリーグ発足後、その人はプロリーグ専任で給料もそこから支給される、サッカーでいえば川淵キャプテンのような存在と考えています。



—— 今回の答申案はいままでになく相当思い切った草案だと思います。惜しむらくはこの答申がもう半年早ければもっと良かったのではないかという声がありますが？

その声はbjリーグのことを含めてのものと理解しますが、ワンタイミング遅かったことはその通りです。しかし日本協会としては、都道府県協会や加盟連盟、加盟チーム・選手といった大変大きな組織でもあり失敗は許されません。やはり物事を変えるには、手順や進め方が重要です。そういった意味では今回の答申案作成にはかなりの時間と労力がつぎ込まれましたし、相当しっかりした答申案ができたと思っています。

—— 改革に時間がかかりすぎることは、これまで日本協会の体質的な問題もあったのではないかと思います。日本協会との調整作業もご苦労されたのではないですか？ また、今まで日本協会はその名の通りアマチュアの統括団体でしたが、プロ発足後は登録問題を含めてどうなるのでしょうか？

日本協会が今まで築いてきた基礎は、プロが発足したからといって変える必要はありません。現在の組織の傘下にプロリーグができると思えばいいのです。これまでプロ化ができなかったのには、様々な問題があつてのことだと考えますし、プロ化設立準備委員会だけが作業を行ってもプロ化はできないと思います。調整すべき問題はたくさんあると思いますが、バスケット界が一丸となって問題解決に臨み、協力していただきたいと思ひます。

—— プロリーグ開幕は2007年秋ですが現行男子で日本最高レベルのJBLはどうなるのでしょうか？

そこも大きな課題の一つであります。プロ化検討委員会では、プロリーグを国内唯一のトップリーグとして答申をいたしました。JBLには会員チームもあるので慎重に進めたいと考えています。しかし、プロスポーツとして運営を行っていくには、現行のJBL運営では難しいと考えますし、プロへ移行するチームと企業スポーツでやっていくチームが出ると思ひます。組織的にもその区切りをつける必要があると認識しております。バスケットの先進国アメリカを例にとれば、NBAとNCAAは完全に両立して、テレビやスポンサーもアマ、プロそれぞれについています。フットボールや野球もしかりで、プロとアマが両立している先進国のスポーツ形態を見て、取り入れるべきところは大いに見習つても良いと考えています。

—— 今回のプロ化推進の答申については、サッカーも参考にされましたか？

大いに参考にしました。“創造は模倣から始まる”の言葉どおり、ゼロからの出発は大変ですので、他のスポーツのいいところは見習うべきだと考えました。それにサッカーを成功させたある組織が協力してくれましたので、参考点は多かったですね。何と云つても一番に言えることは、プロ化してからワールドカップに出場し、強国と堂々と戦えるようになった日本代表チーム選手の技術レベルの変わりようです。

—— 日本ではbjリーグが11月のリーグ開幕を発表して準備を進めているようですが、これとの調整はどのように考えておられますか？

bjリーグは、現時点では日本協会公認の団体ではなく、独立したリーグであります。よつて日本協会の立場としては、bjリーグが行おうとしていることに関して、異を唱える立場にはありませんし、現時点においては具体的に“これこれこういう関係を持つ”ということも言える立場にありません。調整については、今後プロ化設立準備委員会の発足後、進展を検討していく必要があるかと思ひます。同じバスケットを考えているのですから、一日も早く調整ができることを願つています。

—— bjリーグは選手のトライアウトなども実施していますが、bjリーグの選手を日本協会へ登録させることなどについてどう考えますか？

11月に6チームで開幕という前提で準備しているのですから、選手を集めることはその前段として当然だと思つています。bjリーグは株式会社としてバスケットをやっていることなので、こちらの方は経済的自由競争の範疇だと割り切つています。今、具体的なことが見えていない時点ではなんとも言えませんが、bjリーグも登録規定ができる組織となるのでしよつから、日本協会としてはその選手を受け入れるスタンスは持つて行きた

いと考えております。

—— 日本協会ではプロ化へ向けて、現行チームとのすり合わせや事務的な整備、寄付行為に関する研究などは進んでいるのでしょうか？またプロリーグ役員と日本協会役員との関係ではいかがですか？

既に答申書を提出するに当たって、事務的な整備や寄付行為、日本協会規約などに関する研究は行っております。また、プロ化実行検討委員会のメンバーには、現JBLスーパーリーグチーム関係者にも入っていただいておりますので、チームとのすり合わせも行っております。また、現在でも準備としての作業を進めております。また、プロの組織には日本協会からも役員を招聘し、プロの方からも日本協会へ役員を送るような役員の相互乗り入れ方式も視野に入れていきます。

—— バasketボールは世界的にメジャースポーツのひとつとなっていますが、日本でメジャー化できないことをどう思われますか？

何と言っても国際的にもっと強くなければなりません。男子については長い間オリンピックや世界選手権から遠ざかっていますし、女子についても今回世界選手権出場を逃がしました。もうひとつには、あまりにも長い間企業に依存してきた体質が上げられます。他のスポーツを含めて企業に依存する時代はもう終わりましたし、アジア各国や世界を見てもバスケットがメジャーである国には必ずプロがあります。プロ化を推進することによって、バスケットが子供たちの憧れの的になり、頑張ればバスケットで身が立てられるような環境が生まれます。このように小さい頃からバスケットに取り組む風土ができれば、技術的にも更に発展するでしょうし、ひいては国際社会でも通用するようになると思うのです。

—— バasketが現在のようにマイナー的な存在で、プロチームはどのように運営すればいいのでしょうか？

先程も申し上げましたが、企業に依存する体質から脱却するために、チームはチームなりの自助努力で収入を上げることが要求されます。企業にはチーム保有の立場から、チームスポンサーとして支援をしていただくこと、それぞれの地域に根ざして、ローカル・スポンサーを獲得することや、テレビ放映の交渉も自分たちで実行することが必要です。また、見ている面白いゲームを展開することによって更に多くのファン獲得することなど、そのマーケティングの開拓も必要です。企業に依存する体質を改善するためにも、プロチームに対する企業のスポンサー度は従来の負担額の範囲内とすることを答申案でも明記しています。

—— ということはプロになってもスポンサーとして企業の応援を求める結果になるのではないのでしょうか。独立して採算が取れるようなシステムにはならないのでしょうか？

プロ野球、サッカーをとっても、現時点で大部分が企業の応援があつて独立した会社を作り、リーグを運営しています。サッカーの場合は、近年地域チームが発足してきていますが、これとても発足当時からあつたわけではなく、経過をもって取り組んできております。したがって当面は現在のJBL所属チームでも参加し易いような移行期としての第一

段階案を作成しました。将来的なあるべき姿としては、勿論プロとして独立した企業でリーグ運営ができるようにならなければなりません。そうなればサッカーと同じように日本プロバスケットリーグとして歩んでいけると思います。

最終的には寄付行為などとの関係も有り、財団法人日本バスケットボール協会とは別な組織、例えば社団法人にするとかといった組織形態もあるとみていますが、それはあくまでも日本協会の傘下にある組織といえます。

社団法人化の計画では2006年に担当する省庁へ認可申請することになっていますが、日本協会を指導している文部科学省にも助言を仰いでいるところです。

—— プロ化の答申が出された後、将来のあるべき姿が今ひとつはっきりしないため、疑心暗鬼になっている人もいます。日本協会の寄付行為を変えるのかとか、JABBAの名の通りアマチュアとの関係はどうなるのかとか、今年から先に発足するbjリーグとの調整をどのようにするのかとか言った意見も聞かれます。プロ化の方向性をもっと広報宣伝する必要があるのではないのでしょうか？

その通りだと思っています。残念ながらバスケットがメジャーでないために、プロ化に関してマスメディアの取り上げ方が少なく、新聞に載るのは大まかなところで詳細な広報ができていません。答申案では将来あるべき姿を含めてかなり詳細に記述していますが、その内容がすべての人に理解されていない面もあるようです。

プロ化を推進しなければならない背景には、日本のバスケット（特に男子）が国際的に立ち遅れている現実を打開しなければ、日本のバスケットの将来展望は拓けないという強い理念があります。国際的な地位が向上すれば、メジャー化も自ずから見えてくると信じています。

—— プロ化推進にあたって振興会が協力できることがありましたら、遠慮なく仰ってください。

振興会は日本バスケットボール界の先輩諸氏が多数参加されている団体です。これらの先輩方には是非とも全体的なアドバイスをお願いしたいと思います。日本協会の不足しているところなどありましたら、大所高所からどしどしご意見をいただきたいところです。また、情報面においても例えば社会体育の動向や、少し力を入れることによってレベルが格段に上昇しそうなチームの情報など、日本協会へ遠慮なくアドバイスをし、情報提供していただくと有り難いです。

これからプロ化を推進していくに当ってはバスケット界の意思疎通が非常に大切になると考えていますのでよろしくお願いします。

以上

## 特集

# —— バスケットボールには神様がいる ——

## 指導者、故吉井四郎氏の足跡

担当：歴史編纂プロジェクト

### はじめに

歴史編纂プロジェクトでは、バスケットを愛好する方々に東京オリンピックで日本代表チームのヘッドコーチをはじめ、数々のチームでコーチを務められた故吉井四郎氏の語録をできるだけ知っていただくと共に、特にバスケットボールを指導する立場にある人に、是非読んでいただきたいとの強い思いからこの編纂作業を進めました。



故吉井四郎氏

大正9年新潟県出身、昭和16年東京高等師範学校卒業、昭和25年東京教育大学ヘッドコーチ、昭和36年から日本協会理事ならびに日本代表チームヘッドコーチ、東京オリンピック全日本男子ヘッドコーチを経て、興業銀行、住友金属など多くのチームでコーチング。

### 「バスケットボールには神様がいる」

この言葉は、歴史編纂プロジェクトが故吉井四郎さん（以下吉井さん）の語録を編纂する作業を3回にわたって行ななかで、出会った多くの人たちの口から出た吉井さんの非常に印象深いフレーズです。

たくさんのご貴重な発言がありましたが、今回プラザの誌面をお借りして、そのダイジェスト版をお送りします。

第1回目は東京教育大学（現筑波大）で吉井さんから直接指導を受けた方々からの証言です。

出席者：野口昌三氏 従野明宏氏 小林慧歩氏 山崎和彦氏 桑原信氏  
司 会：島本和彦氏 上谷富彦氏

従野氏 吉井さんの基本的な指導の姿勢は理論が確立していることです。理論で納得させられるから、こちらもやらざるを得ない。毎日練習に行っても、何年たっても、いつも一回の練習が新鮮なのです。そこに新鮮さを感じられるというのは素晴らしいことだと思います。僕は今でも神様だと思っていますし、あのバスケットに対する純粹さは凄かったですね。ある人が「吉井は実業団のコーチをしているんだから、よそのことはやるな」と言ったとき、吉井さんは烈火のごとく怒ったんです。「バスケットをやっているんだから、実業団だろうが学生だろうが、女子だろうが男子だろうが、そんなものは関係



ない」と。要するにバスケットを広めて皆にわかってもらいたいということなんです。バスケットに対しては本当に純粋でした。

島本氏 いつも新鮮な練習だったということですが、どんな感じだったのでしょうか？  
野口氏 私が大学2年生のとき、昭和26年から吉井さんが監督になりました。今從野

さんが言われたように、非常に理詰めのバスケットを教えられました。我々のときは速攻、遅攻の両方ともありましたけれど、オフェンスでは相手が守る前に攻めろという教わり方をしました。大体練習の半分以上は速攻の練習で2メンダッシュや3メンダッシュ、ロングパスなどをやっていました。

速攻、遅攻の切替問題では、どうしたら相手の速攻を止められるのかということを実験的に教えていただきました。あまり怒鳴ることはしませんでした。が、「だめだつてば！」という言葉はしょっちゅう言われましたね。

私が3年になるまではチームが低迷したので、多分ご苦労されたんじゃないかと思えます。ただ、今でも印象に残っているのは「バスケットには神様がいます」ということを必ず言われたことです。「一生懸命にやりなさい。そうすればいつか必ず神様が助けてくれる。最後まで諦めるな」ということは常に仰ってました。私も64年間バスケットに関わっていますが、試合を見ていると、ときどき“神様がいますな”と感じることもあります。まさか、と思っていたのに逆転して勝ったり、逆にもう大丈夫と思ったのが負けたりする。なんでも一生懸命にやれ、というのは今でも教訓として残っています。

小林氏 「リーグ戦の場合は1点勝てばよいが、トーナメントの場合は何点まででもリードを奪え。そうすれば次の対戦相手に脅威を与えられる」ということをよく言っておられました。



今でこそ、コンピューターで試合中の諸データがすぐ判りますけれど、吉井さんはもうあの頃にご自分でデータを取る用紙を考案しておられましたから。試合の動きを全部書き込んで、それを図示すれば誰がどういうプレイをして、何回ミスをしたのかすぐに出てくるんです。だからハーフタイムに「ここがダメだから、お前はもう少しリバウンドをがんばれ」とか具体的に指示が出ました。

備考	man to man Defense											Time 1 zone Defense				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
攻 撃 回 数																
Shot or Miss	X	X	CM	CM	PM	CM	/	/	/	X	/	Cr	/	DM		
Player	31	11	15	11	16	23	16	16	11	23	11	23	23	16	31	
shotの種類	M	cl					j	j	j	M	J			M	j	
攻 撃 の 種 類	S	S	S	F	S	S	S	F	S	S	S	S	S	S	F	
A	31 A	⊙											⊙		⊙	F
	16 B			∇												
	11 C	⊙							○							
	11 D								○	○		P				
	15 E												○			
	Line out				∇								○			
ミス 得点累計	2	4		6		7			9			14		12		11
ニコ 時 間			16'		16'		15'									
ブル 得点累計			2		4	6			8		10		12			13
攻 撃 回 数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
Shot or Miss		Cr	X	DM	CM	X	X	/	X	/	CM	M	X	/	DM	
Player		10	3	10	13	13	14	14	3	4	3	13	3	14		
shotの種類			cl			cl	j	j		cl	M		j		cl	
攻 撃 の 種 類		S	S	F	F	S	F	F	S	S			S		F	
B	4 甲				P											
	10 乙						F								○	∇
	10 丙	⊙									○		○			
	11 丁			∇									○			
Line out					∇			○					⊙			
	Shift man to man Defense															

島本氏 吉井さんはもちろんご自身でもよく考えられたのでしょうか、アメリカの文献をよく研究されてました。どれだけ特徴を取り入れるかということと、使えるところと使えないところがあるとも仰ってました。次に山崎さんは如何ですか？

山崎氏 私が吉井さんの言葉で一番印象に残っているのは「優秀なコーチとは、いろいろな練習方法を知っているコーチではない」と仰っていたことです。それは裏を返すと、いま自分のチームに何が欠けているのか、それがわかれば練習方法は必ずいいものが見い出せるということです。まずは自分のチームの良いところ、欠けているところを理解することだと仰っていたことが一番印象に残っていますね。

桑原氏 長所を見い出すという点では、吉井さんはシュートをこういう風に投げろとは絶対に言いませんでした。手首の硬さが人によって違うのだから、シュートは人それぞれのやり方に任せていましたね。

野口氏 私の頃からちょっと変わったのですが、それまでは片手でボールを扱うことを禁じられていたんです。ハワイチームが来てから日本全体も少し変わりましたが、そういう部分は割合柔軟にやらせていただきました。

島本氏 かなり早めにいろいろなものを取り入れられたということなのですね。そんなところで桑原さんはなにかエピソードをお持ちでないですか？

桑原氏 僕たちは吉井さんから教えていただきましたが、東京教育大のバスケットは昔から色々なスクリーンプレイなどがあって、そういうプレイは連綿と続いた先輩たちが作り上げたものと言うんですよ。そういう昔からある技術を頭の中で整理されておられたですね。

吉井さんのいちばん良いところは（それは同時に欠点にもなるのですが）謙虚すぎるということです。絶対に威張らないんです。だから僕らが指導者になったとき「コートには無限の可能性が広がっている。だから指導者になっても教えてあげるなんていうことは、口が裂けても言うなよ。教えてあげる



ということ、教えてもらっていることなんだ」ということを言われました。その謙虚な姿勢が吉井さんのバスケットを作ったと思います。

僕は中学生の頃から、野口さんとか糸山さんとか坂上さんとか鈴木勉さんとかのプレイをずっと見てきました。その人たちのプレイは年を経てもなんら形を壊されていないし、自分たちがやりたい通りのことをやって、それをうまく吉井さんが引き出している。今度はそれを僕たちに教えるときに、例えば「松尾のフェイントっていうのはこういう風にやる。オレはできないけど、お前らやってみろ」と。これは今で言う首振りというフェイントだったのですが、吉井さんはそれを自分で1対1のオフェンスやディフェンスの中に組み入れるんです。こういう風に非常に謙虚で、ものをよく見ている。チームにとっても、選手にとっても一番良いものを引き出していました。

大学4年間では1対1のオフェンスとディフェンスを非常に重視していたのと、練習方法や連綿として続いてきた技術は大事にしていました。僕が1年生のとき、木下さんという先輩がいたのですが、その人にディフェンスされるとボールがもらえないんですよ。いくらやってもボールがもらえない。そういうディフェンスというのを僕たち下級生に教えるために、木下さんのことを非常に大事にしま

したね。

島本氏　　ということは皆さんのプレイスタイルはあまりいじられなかったということですか？

一同　　そうですね。それはその通りです。

小林氏　　私が長野の吉田高校2年生の頃、吉井さんは春の合宿、夏の合宿、ときには秋にも来て下さいました。その結果、創立何十年という旧制中学校を追い越して、3年目で長野で優勝することができました。そんなことで吉井さんには高校の頃からよく指導していただきました。そのときに話をしていたのは、「新潟に兄貴（故吉井精三郎氏。新潟クラブの名選手で吉井さんの実兄）がいて、砂浜に行ったら波が寄せては引くのに合わせてフットワークをやっていた。砂の上で踏ん張ってやるのが一番良いんだ」と。また「列車に乗ったら必ずつま先で立って、どこにもつかまるな」と。その当時は、汽車通学でしたからね。さらに「揺れに対してバランスが取れないといけない」、「列車に乗っているときにデッキの下の砂利や枕木をずっと見て、スピードが上がってきても、見えなくなっても心で見えなくてはいけない」とか、そういうことを叩き込まれました。視野を広げるためにそういうことをしなさいということでした。

そして技術的なことは、私どもの高校をテストケースにしていたようです。コーチに来ていただいていた頃の年数を数えてみると、ちょうど吉井さんが教育大の監督をされ始めた頃でした。教育大でやることを、まず高校の合宿でやってみるんです。だから、私が大学に行ってから練習は、だいたい高校でやった練習でした。

従野氏　　吉井さんの良いところは人間性というか、どの選手にもえこひいきが無く、どの選手にも真剣に会話していたということですね。今日、ここに来る前にもう一度VTRを見てみたら、吉井さんの奥さんのところに来る人は、みんな「僕が一番可愛がってもらった」と言うらしいですよ。僕ももちろんそう思いますし、みんなそういう風に思っているんです。指導者っていうのはそういう人間性が無いとね。

野口氏　　当時、日本を代表するバスケット選手として糸山君（メルボルンオリンピック



からの日本の名センター。故人）がいました。彼は私の中学の後輩なんですよ。入ってきたとき背が高くして195 cmありましたが、足腰が弱くって。そこで吉井さんは糸山君に今で言うスクワットジャンプという練習を一日何回もやらせました。彼が涙を流しながらこなしていたのを思い出します。それから下半身が非常に強くなり、3年くらいから伸びてきましたね。

あとはフックシュートです。あれは吉井さんが教えていました。あのフックシュートはボールをもらって、1歩後ろに下がりながら打つもので、大きくて手も長いから誰もブロックできなかったですね。手が届いたのは立教の荒井洵哉さんくらいですかね。

山崎氏　　あとは早稲田の木下さんとかね。

従野氏　　吉井さんのことに関係するのですが、糸山君が「オレは日本鋼管に入ったのはバスケットで入ったんだ。学問的な実力で入ったんじゃない。」と言っていました。

だからナショナルチームの合宿中、練習が終わってみんながゴロゴロしているとき、会社に行って仕事やっています。私が「お前、そんなことまでやらなくてもいいじゃないか」と言うと、彼は「オレは会社の仕事は大切にしたい」と言っていましたね。「オレはバスケットで日本鋼管に入ったんだけど、一般入社の大学生なんかには負けたくない」と。何でも前向きに考えるという姿勢は、吉井さんの影響がだいぶあると思うのです。

桑原氏 それと似たような話ですが、東京オリンピックのころに奈良さん(立教大出身、日本鉱業で活躍した名ガード。故人)が同じことをやっていました。彼も、合宿途中に日本鉱業の本社に帰って仕事をしていました。ある夜守衛が回っていたら電気がついていって見に行くと、奈良君が仕事をしていたらしいのです。そういう風に、吉井さんの教えは生き方にも影響があったのかもしれないですね。

従野氏 その通りだと思います。たとえば最近の指導者は殆ど学校の先生でしょ。学校の先生ぐらい生意気でわがままで、自分が一番えらいと思っている人はいない。僕が勧銀をみていたときに、高校生チームがよく合宿に来ました。そうするとある高校の先生はサイドバッグひとつ持っているだけ、自分の合宿に必要な荷物はみんな生徒が持っている。生徒なんか、自分の身体より大きなカバンを持ってきているんですよ。それで知らん顔しているわけです。僕はいつもその先生に向かって「自分のことは自分でやれ」と言いましたね。

要するにそういうことが当たり前だと思っている指導者が教えているからチームがダメなのです。自分が理論的に説明できないから暴力に訴える。僕は練習を見るときは、じっとして一言も言わない。選手が転んだらすぐにモップを持って行って拭いてやるんです。今度怪我をしたら困るから、そういうことだけをやりました。

あと吉井さんは酒が大好きでしたので夜はそのまま休まれて、朝の3時とか4時頃から本を読んだりして、バスケットの勉強はいつも朝でしたよ。

桑原氏 吉井さんが言ったことがみんな語録になるんですね。一番覚えているのが「行けるとこまで行けば」というやつです。それまでやっていたプレイを途中で変えらるとものすごく怒るんですよ。チームがあるプレイを仕掛けたとき、ダメでもないのにその選手個人の感覚で変えてしまう



と、その攻撃がうまくいかないからダメなのか、その攻撃を変えたからダメなのか、わからなくなってしまうからと。それから「転がったボールはオレのボールだ」というのもありました。ルーズボールはどんな下手くそでも、誰でも拾えると言うんです。ルーズボールを取ると取らないとではプラスマイナス4点の差に

なると、それはもう口癖のように言っていました。

それにいま NBA でもやっている、ディフェンスのときにおへその前まで体をピタッとつける方法があるけど、そのときは「へそ舐めろ！」と言うんです。(笑) それで一步相手の目の動きを阻止する訳です。要するに適当な間隔でディフェンスをするなってことですね。間隔をあけると「へそ舐めろってば！」ってくる。

島本氏 ピタッとディフェンスされると相手は動けないですね。

桑原氏 あとはリバウンドを取ると「前送れ！」と言うんですよ。こんなのは誰でも言うことだと思うのですが、吉井さんの言っていることは「一番前の味方を探せ」ということなのです。最初はただ前に送ればいいのかと思っていたのですが、それに気が付くのに2年かかりました。(笑)

パスのときは「相手の目を見ろ」とも言われました。ディフェンスとしてはどこにパスをするのか目を見てるわけじゃないですか。だからパスを出すときは相手の目を見ろと教わりましたね。

山崎氏 私は卒業してから自分が高校を指導するようになって、そこで説教されたことがあるんです。なんとかインターハイに東京都から出たいと思って頑張っていたのですが、3位ぐらいまででなかなかそれ以上にならない。ある日、吉井さんの池袋のお宅に伺って、「いまの学校は進学校だから、5時になるとサッと帰らなければならないんです。もうちょっと練習時間があれば勝てるのですが」と言ったら怒られました。「そういうことは自分で言うてはいけない。見ている人は見ている。練習時間が無い中で頑張っているということをオレも見ている。でもそれを自分で言うてしまっっては終わりだよ。」と



言い聞かされました。それから全ての仕事に関して、それを流用するようにしたのです。とにかく自分が愚痴を言うてはいけない。それ以来、人が見ていてくれるのだから評価すべきことは人が評価してくれると思ってやっています。

従野氏 それに関連して、常に口癖で言っていたのは「指導者たるもの選手の悪口は絶対に言うな」ということです。僕はそれを肝に銘じて、勝ったら選手が偉いんだ、負けたらオレが悪いんだというくらい染みついています。

先ほどの理論派ということは、本を読んでみればわかると思うのですが、物事に定義をすることが非常に好きな方でしたね。例えばエラーはなぜ起こるのか。私は全部覚えきれていないのですが、パスならパス能力の不足、それからディフェンス能力の誤認だとか、そんな中からエラーの原因をパッと指摘していました。

山崎氏 私が一番覚えているのはスクリーンには3つしか型がないんだということです。これを頭に叩き込んで今の指導をしているのですが、とっても楽ですね。

島本氏 その3つの型というのはどういうものですか？

山崎氏 ボールを持つプレイヤーに対するピックとトレイル、それとボールを持っていないプレイヤーのスクリーンの3つです。

上谷氏 今回のお話で人間性という話が多く出てきたと思います。それを吉井さんは潜在的にお持ちだったと思うのですが、努力して選手をどんどん伸ばしていくということはなかったのでしょうか？

指導者にこれを読んでもらったときに、人間性を増すにはどうすればいいのかと



ということになると思うのです。

潜在的に持っていたものに加えて、こういう努力で人間性を伸ばしていったということなど、ヒントとしていただければと思うのですが。

例えば人の意見を聞くとか、選手をけなさないこととか。選手をけなさいというのは指導者として重要なことだと思うのです。

従野氏 吉井さんに「こういうときどうすればいいですか？」と質問すると、すぐには答えないんですよ。じっくり考えてから答えるのです。質問の意図がどこだったのか、それをわかりやすく説明するにはどうすればいいか、それを自分の頭の中でじっと考えてから話すというのが吉井さんの特徴でした。

山崎氏 質問した人に一番合った答えをしていたと思います。十把一絡げじゃなく一人ひとりに違う回答をしていたはずですね。

そういう意味では、札幌に八谷さん、辻村さんがいらして、東京の近くには井上さん、関口さんがおられて。吉井さんはそうそうたるメンバーのなかでやっていた。そういう環境にあったがために、技術面と言うよりも理論的なもの、指導的なものに力をいれるようになっていったような気がします。

相当のデータを自分で詰め込んでいたと思うのですが、私が「中学の試合を見てもしょうがないや」と言うと「バカいうな、中学生の試合でも必ず参考になるプレイがある」と言われたことがあるんです。だからそうやって試合を見ては、全部頭の中に入れていたのだと思います。

桑原氏 試合のときは試合開始の1時間から1時間半前に集合がかかるんです。今日のゲームについてのオフenseはこう、ディフェンスはこう、個人的には相手はこうと伝えられます。平均すると1時間くらいですね。

上谷氏 全員集められるんですか？

桑原氏 出場する選手は全員集められました。前の試合に相手のデータを全部取っておくのです。これは僕のいる4年間ずっと変わらなかったのですが、それを嫌う選手と一生懸命聞く選手と両方いました。

従野氏 吉井さんはただ話をするだけじゃなくて、一言一句全部書いてあるのです。どういう話をするとか全部書いてある。それはすごかったですね。だから練習一回するより、ミーティングを一回する方が効果的なこともありました。

野口氏 吉井さんは監督になったばかりのときは、話があんまりうまくなかったですね。特に挨拶になると単語がぼつんぼつん出てくるだけで、全然だめなんです。終わり頃になったらだいぶ話も上手になりましたけど。(笑)

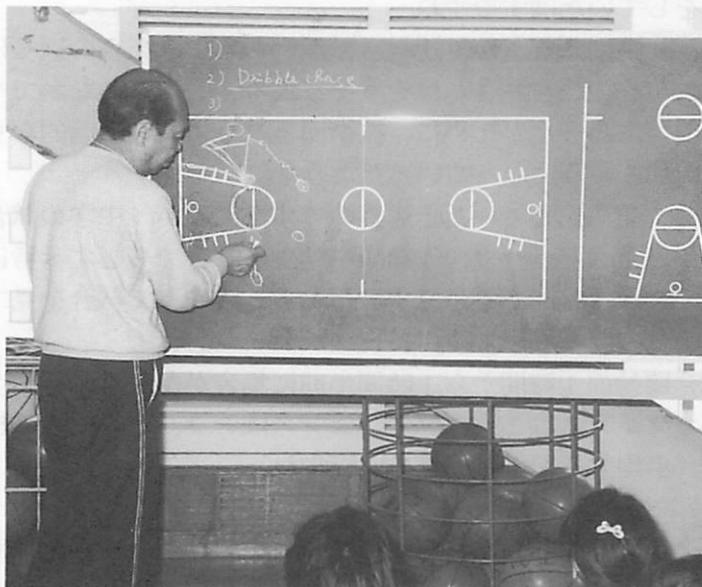
試合中、ハーフタイムに先輩たちが集まってきて技術的なことで文句を言うんですよ。吉井さんと相談した上で言うのなら良いのですが、勝手なことを言う。そういうときに一回だけ先輩に食ってかかったことがありました。「オレに監督を任せただから、口を出すな」と。それから「しっかりやれよ」と応援に来てくれるだけで、技術的なことは何も言わなくなりましたね。

島本氏



アメリカのカレッジバスケットを例にとると、インディアナにボビー・ナイトがいると、その下に誰がいるのかズラズラっと連なっていくんです。家系図というか、アメリカではファミリーツリーというのですが、吉井さんについてもそういうものを作ってみたら面白いかもしれませんね。

従野氏 最後にこんなエピソードを紹介します。吉井さんが興銀で、僕は勸銀だったのですが、どうしても吉井さんの理論を選手に伝えたいと思い、吉井さんにコーチをお願いしたのです。そうしたらコートの上ではやらないけど、講義ならいいということで、一日だけやってもらえたのです。終わった後、選手たちに聞いたら「さすが先生の師匠だけはある」と感激しているわけですよ。そういう風に、バスケットのことに



ケットのことに  
しては、中学生だろうが小学生だろうが、呼ばれればすぐに行って指導を惜しまなかったですね。指導者講習で地方を一緒に回ったことがありましたが、昼は講習をして、夜は酒の席に指導者が集まってきて、いろいろ話すわけですけど、吉井理論というのは一緒にやっている僕らが聞いていても新鮮でしたね。

このように指導者の指導が出来る人間がこれからも必要ではないでしょうか。

上谷氏 本日はお忙しい中大変有難うございました。

# 八詩 (はちうた)

BISTRO HACHI-UTA

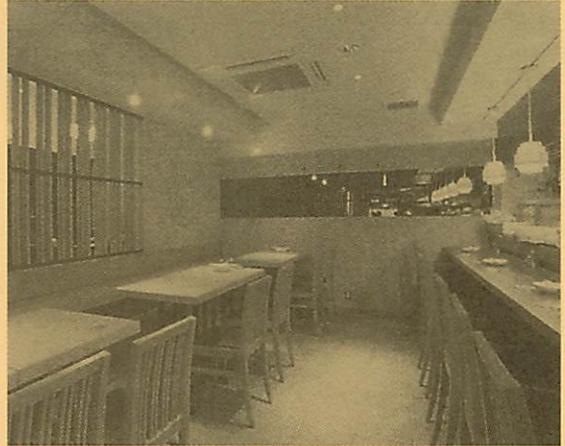
BISTRO 八詩

渋谷の喧騒を忘れそうな和める空間で、旬の素材を。

## ごまや

BISTRO ごまや

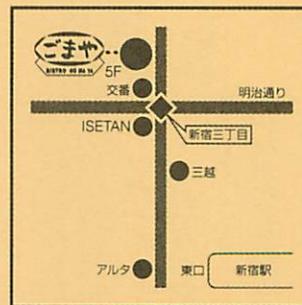
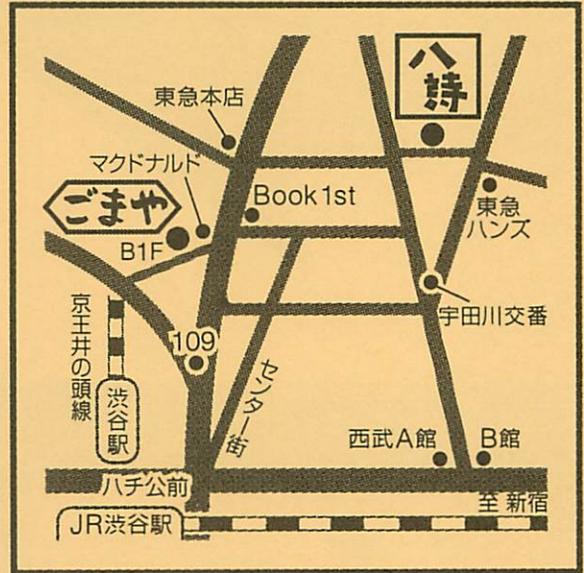
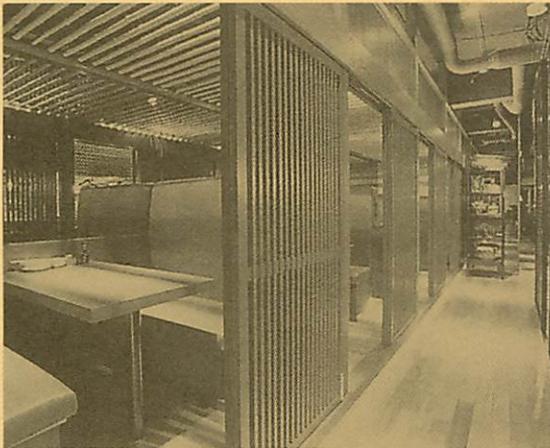
渋谷の真ん中と思えない、まるで大人の隠れ家。



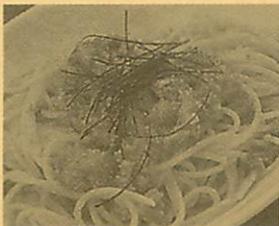
## ごまや

BISTRO ごまや・新宿店

素材にこだわった料理とひとときを、和みの空間で。



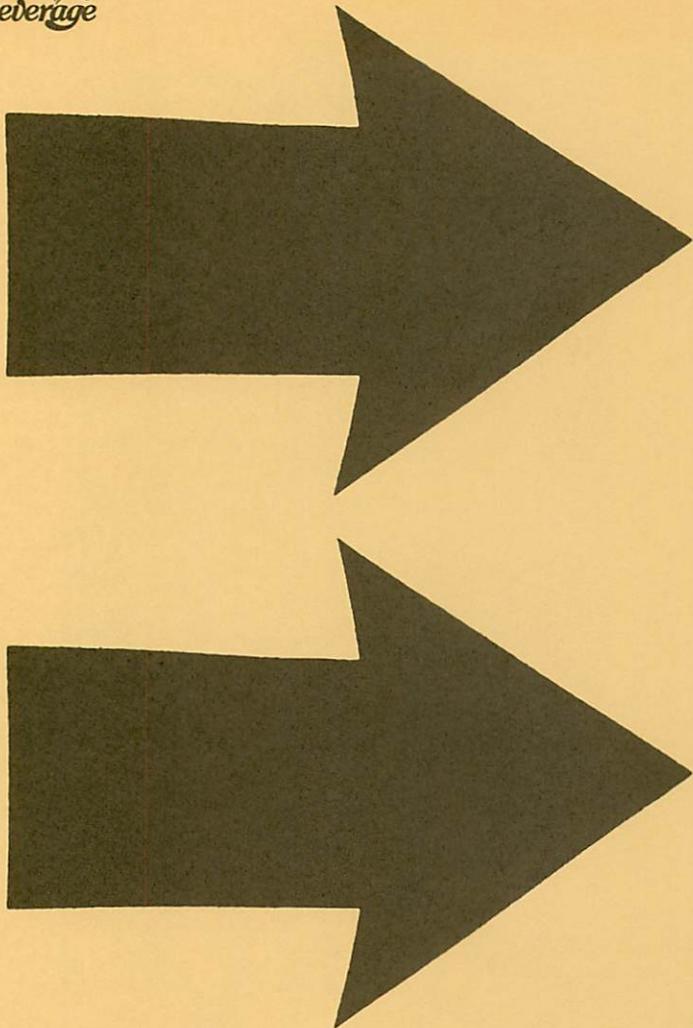
東京都新宿区新宿3-4-1  
カルムビル5F  
tel:03-5269-8158  
Open 11:30 ~ Last Order 22:45  
\*年中無休\* (120席(個室大小12部屋))



おすすめメニュー

- 手造り胡麻豆腐
- 季節の野菜で胡麻よごし
- 豚肉ニンニク味噌巻き
- 生タコの青のり揚げ
- ピリッと胡麻の葉炒飯
- 生ウニたっぷりスパゲッティー

JACKPOT GROUP OFFICE ジャックポットグループ・オフィス  
〒155-0032 東京都世田谷区代沢5-35-8 岩瀬ビル1F  
TEL 03-3413-9555 / FAX 03-3412-7332 www.jack-pot.co.jp



KIRIN  
**激流**

激 的 水 分 補 給  
ス ポ ド リ